

はじめに

前回、人類の贖いの契約の歴史の中にアダム契約によって二通りの流れがあることを見た。一つはサタンの子孫に属するもの、もう一つは女の子孫に属するものであった。

そして、神の世界救済計画において神の祝福を届ける器としてのイスラエルの民が登場する。それはアブラハム契約である。

1. ノア契約（保持の契約）

(1) 創造の契約との関係

ノアとの契約は、神の創造の契約と、あがないの契約とを結びつけている。

「鳥は種類ごとに、動物も種類ごとに、また地面を這うすべてのものも種類ごとに、それぞれ二匹ずつが生き残れるよう、あなたのところに来なければならない」（創世記 6:20）と、箱舟から出るときの 8 章 17 節に創世記 1 章 24~25、28 節などに同じような表現がなされていることに相互の関連性を見出す。

(2) ノアに対する特別なめぐみ

神は墮落した人のよこしまな罪惡が極まって、人を滅ぼしつくすことを決意された。（創世記 6:5~7）。しかし、神はノアに対してのみ、めぐみ深く接したのである。しかし、ノアは【主】の心にながっていた」（同 6:8）。「主の心にながう」という意味はヘブル語で「主の目に恵みを見出す」ということであり、ノアが前もって正しい人であったがために「めぐみ」を受けたのではない。「めぐみ」とは、めぐみを受けるにふさわしくない人へのあわれみを表すものであり、「主の心にながっていた」ということはノアの信仰を表すのである。神がノアという特定の人物を無条件に選んだということでもあった。やがて、新約聖書の使徒パウロによるめぐみの福音へと連綿として続いていくテーマでもあった。（エペソ 2:8~9）。

(3) 家族を含めた契約

神はノアとともに、ノアの家族をも救おうとされたことは見逃せない重要な事実である。（創世記 6:18）。（同 7:1）。

(4) 保持のための契約（創世記 8:21~22）

これは、神はあがないの契約が完成するまで、現在のまま大地を含む世界秩序を保つという約束である。神は、ノアの時代にさばきを執行されたのは、裁きによって罪が完全に解決しないことを知っておられた上でのことである。裁きによって人の心を変えるのには限界があり、後に与えるあがないの契約の進展に備えられたのではないだろうか。ノアの洪水の裁きは、後に来るべき裁きの日があることを示している。（Ⅱペテロ 3:4~7）。

(5) 被造物全体への永遠の契約（虹のしるし、創世記 9:9~17）

ノアとの契約の証印として、美しい虹のアーチが雲の中に現れる。この虹は、裁きの中にも示されるめぐみであり、「永遠の契約」のしるしであると宣言される。(創世記 9: 16～17)。遙かのちの日に、使徒ヨハネはパトモスで、天地を裁く義なる方の御座の周りに、虹を見たのである。(黙示 4 : 1～3)。

2. アブラハム契約(約束の契約)

(1) 創造主が主権的に与えられた一方的な約束

★【主】はアブラムに言われた。(創世記 12 : 1～3)。

★同じ命令が再び与えられる。それは、割礼によって契約を証印することを命じる際においてであった。(同 17 : 1～2)。これらの命令は、「協定」や「同意」という文言は一切なく、神が主権的にアブラハムを選び、契約を結んだことを示唆している。

(2) アブラハム契約の正式な締結 (血による結びつき)

★アブラハムは年を重ね、約束の子はいまだ与えられていない。法的縁組による相続人を求める考えすら思い浮かべていた。主は4節にイサクが実子として生まれることを告げ、5～6節で有名な「信仰義認」の宣言がなされた。

★日没にアブラハムは深い眠りに落ち、幻によってエジプトでの奴隷の預言を受ける。(創世記 15 : 16)。

★太陽は完全に沈み暗黒が支配した。目覚めたアブラハムは驚くべき光景を目撃する。(創世記 15 : 17～18)。

これが、アブラハム契約が正式に批准されたみことばの証言である。動物を裂き、その間を通り過ぎることで契約の当事者は、生死を賭した誓約を結ぶのである。もし違反した場合は、自らにのろいが降りかかるという誓いであった。

この時、神だけが切り裂かれた動物の間を通過していることが最も重要なことである。アブラハムは神が通り過ぎるのを見ていただけであった。つまり、この契約締結は、**神からの約束による無条件契約であった**のである。アブラハム契約は、約束の契約とも呼ばれる。

むすび

アブラハムから約 1400 年後、ユダ王国ゼデキヤ王の、バビロン軍の包囲下での契約更新の儀式が行われた。これは創世記 15 章の儀式がもとになっている。

(エレミヤ記 34 : 17～20)。

さらに、アブラハム契約締結の新約聖書における主な証言をあげる。(ヘブル 9 : 15～20)。このみことばは契約と死を結びつけている。契約を結ぶものの流す血が契約の条件である。最後にイエス・キリストの十字架の贖いのことばは、マタイ 26 : 28 である。

「これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。」